



9月27日から始まったパラナ州（クリチバ市、マリンガ市、パラナヴァイ市）での教育に関する連携・協力活動もあと一日になりました。この間、州・市教育局や市立学校等を訪問して、日本の教育文化を伝えたり子どもたちを取り巻く教育環境について多くの方々と話し合ったりしてきました。両国間において文化や慣習等、さまざまながいはあるものの、教育の不易の部分においては共通し、共感し合える面が多くあったように感じました。

これまで、パラナ州と豊橋市とをつなぐ懸け橋役の一人として、ブラジル教育文化等の一端を紹介してきましたが、豊橋市立小中学校のみなさんの心に届いたものが一つでもあれば幸いです。今回は、これまでに紹介できなかった記事を掲載して、本通信の結びにさせていただきます。

中野小に3年生まで在籍 大橋さん（17歳）との出会い

中野小に在籍していた大橋さん（右写真、マリオ右隣）に会うためマリアルバ市文化体育協会内の日本語学校に行ってきました。

8年前の帰伯時、2年生に所属した大橋さんの前には、言葉の壁が大きく立ちほだかり、なじむまでに3年間を要しました。その間、何度も“日本に帰りたい”と思いましたが、両親や日本語学校の仲間存在によって、その苦しみを乗り越えられたそうです。

なお、汐田小に在籍していた佐藤なおみさん（17歳女性）も、この学校に通っていました。



授業中の幼稚園（5歳男児） お誕生日会を開催

学級訪問中、本日が誕生日の子に出会いました。しばらくすると、祖母と両親が誕生ケーキ、ジュース、チョコレート菓子、各種揚げ物（ジュース以外は全て祖母の手作り）を持ち込み、ほどなく誕生日会が始まりました。文化の違いに驚きつつも、ほんわかした雰囲気十分に浸ることができました。

半分以上の子どもが欠席!? ～雨天時の教室風景～

今年のパラナヴァイ市は天候不順の日が多く続きました。右写真は雨天時の学級風景です。この状況について校長に尋ねたところ「雨が降ると、毎回欠席が多いので困ります」と、淡々と答えました。

その一方で、ある校長は次のように述べました。「雨の日でも学校に来なさい」と、幼稚園児のころから言い続けているので、4～5年生になると浸透してきます。



大人の学び直し 昼の部（夜の部） 26名いきいきと勉強

家庭の事情で学校に行けなかった方、字を書くことのできない方、障害（知的、肢体不自由等）のある方々が、一緒に教室で学んでいました。最高齢は62歳のご婦人（写真右前方）です。机に向かう生徒みなさんの目がいきいきと輝いていたことが、強く印象に残っています。